

こめつぶのかみさま

川口市立戸塚南小学校 一年
西 牧 航 太

一年生になって、おてつだいのしゆくだいがでた。ぼくは、こめとぎにちょうせんすることにした。おかあさんにおしえてもらった。

「おこめをあらうときは、こめつぶがながれてしまわないようにそつとね。といだときのしろい水は、とぎじるといって、えいようがあるから、はなの水やりにもつかえるのよ。」

いまではひとりでごはんがたけるようになり、おこめともつとなかよくなれたきがした。

そんなほくにこのなつやすみ、だいじけんがおきた。キャンプにいつて、すいはんきをつかわずにごはんをたくことになったのだ。まきでひをおこし、そとでごはんをたくなつて、ほんとうにつくれるのかドキドキだった。

いよいよほんばん。おもたいなべとざるをつかつて、おこめをあらった。おうちでもおてつだいをしていたので、じょうずにできた。

ところが、なべをはこぼうとしたときだった。てがすべり、おこめがはいったなべをおとしてしまった。おこめはいっしゅんで、すなまみれになった。なきたかった。でも、あきらめずにぼくは、おこめをひろいつづけた。すなをとりながら、なんどもあらいなおした。

三じからつくりはじめて、かんせいしたのは六じだった。おなかはぺこぺこ。でも、できあがつたごはんは、もちもちとしていてあまくて、さいこうにおいしかった。おなべがからっぽになるまで、たくさんおかわりした。

よる、ふとんでおかあさんがぼくにいった。

「おこめがこぼれちゃったとき、だいじにひろいだしたこうたをみて、おかあさん、うれしかったんだ。おこめをつくってくれたひともきつとよろこんでいるとおもうよ。おこめには、一つぶ一つぶかみさまがいるからね。」

きょうも、おこめをとぐときはこめつぶをながさないようにそつと。そして、おちやわんにはこめつぶゼロ。こめつぶのかみさまがにこにこでいられるよう、ぼくはがんばり中。